

# Chapel NEWS

## チャペルニュース

イースター、おめでとうございます

笠松キリスト教会牧師 高松和代

ある小児科の先生が研修医一年目に出会ったお子さんのことを知る機会がありました。その子は「みくちゃん」と呼ばれていたそうです。みくちゃんのお腹にはガンがあり、もう手の施しようがないくらい大きくなっていました。ある日、病室に行くと、みくちゃんは算数の問題集をやっています。まだ小学三年生なのに、四年生の問題集を解いています。驚いていたら、ベッドサイドにいたお母さんが「小学四年生にもなると結構難しくて、訊かれても私もわからないことが多いんです」と笑って話されます。余命わずかな我が子に、算数を教えるお母さんの心情を思うと、この若い先生は激しく心がゆさぶられたと言われます。

普通、親は子どもが良い人生を送れるようにと勉強を教えます。でも、みくちゃんは、もう間もなくこの世を去ろうとしていました。お母さんもそれを知っていました。それでもお母さんは我が子を「死を待つだけのいのち」で終わらせたくはなかったのです。愛しているから…愛している我が子だからこそ、希望があるかのように「未来があるいのち」のように過ごさせたかったのです。

神さまも私たちを深く愛しておられます。私たちを「死んで終わりのいのち」にしたくありません。まして死んだ後に、罪の刑罰を受けなければならない終わりになど、神さまにはどうしても出来ませんでした。だから私たちの罪の身代わりにイエスさまを十字架で死なせ、三日目によみがえらせ、私たちに死んで終わるだけでない、希望のあるいのちを与えてくださったのです。私たちを愛しておられる神さまからの「死で終わりでない、希望あるいのち」のことをぜひ、知ってもらいたいと願っています。

「わたし(イエス・キリスト)はよみがえりです。  
いのちです。

わたしを信じる者は死んでも生きるのです」

聖書 (ヨハネの福音書11:25)

# 岐阜とキリスト教④

～笠松に関連して～



今回は笠松に関わることを紹介させていただきます。  
まずは、岐阜中納言と呼ばれた織田秀信です。信長の孫にあたる秀信（信忠の長男）は幼名を三法師といい、本能寺の変後の清須会議で織田家の後継者に選ばれました。秀信は1591(天正19)年に岐阜城主となり、1595(文禄3)年、弟の秀則と共に岐阜で宣教師オルガンティノより洗礼を受け、城下には教会、病院、孤児院が建てられ、領内には多くのキ



リシタンが生まれました。残念ながら、秀信は「関ヶ原の戦い」で西軍につき、その前哨戦となる「米野の戦い」で敗北し、その後岐阜城に籠城、自刃してしまいました。(右上写真は笠松町米野にある「米野の戦い」の記念碑)

笠松小学校の中庭にはキリシタン灯籠があります。もともとは笠松町西町(笠松町歴史未来館の南)にあったとのことですが、由来はわかりません。灯籠の下部にマリア像が彫られています。キリシタン弾圧の中にあってもしっかりと信仰を守ろうとした人が笠松にもいたことがわかります。(左写真は笠松小学校にあるキリシタン灯籠)

文責：笠松キリスト教会員K

## イースター礼拝のご案内

3月 31日(日) 10:30～11:45

クリスチャンでない方も大歓迎です。聖書や讃美歌、必要なものは貸出をします。  
(礼拝の中で献金の時間がありますが、自発的な捧げものです。強制は一切ありません。)

岐阜県羽島郡笠松町梶町117-6  
(笠松町役場北側)

笠松キリスト教会

TEL (058) 387-3655



↑HPはこちら



当教会はバリアフリー対応です。車イスご利用の方もどうぞお越しく下さい。  
駐車場が教会隣にごあります。

当教会はエホバの証人、モルモン教、旧統一教会とは一切関係ありません。